

新潟市 秋葉区 農業委員会だより

第 44 号

平成30年 8 月 1 日

編 集 ・ 発 行

新潟市秋葉区農業委員会
電話(0250)25-5525



「おいしいブドウが実りました」（秋葉区新保地区ブドウ園）

内 容

農業委員・農地利用最適化推進委員を募集します。

平成三十一年三月末日の任期満了に合わせ、新たな農業委員と農地利用最適化推進委員を募集します。詳しくは、2ページをご覧ください。

*

委員視察研修に
参加して

七月十日・十一日に福島県白河市で実施した平成三十年委員視察研修の概要について、大竹玲子農業委員が報告します。

*

委員潜入レポート

七月二日に開催された、中東蒲原指導農業士会現地研修会に佐藤英一農業委員が参加しましたので、その概要についてレポートします。

農業委員・農地利用最適化推進委員を募集します

●新潟市秋葉区農業委員会の農業委員

農地に係る許認可、農地利用の最適化の推進に係る業務を行う農業委員を募集します。

募集人員 16人

対象 農業に関する識見を有し、農地等の利用の最適化の推進に関する事項その他の農業委員会の所掌に関する事項に関し、その職務を適切に行うことができる方

任期 平成31年4月1日～平成34年3月31日

報酬 43,000円以内（月額）

応募方法 団体や個人からの推薦、自ら応募 ※所定の様式を提出してください。
くわしくは募集要項をご覧ください。

募集期間 平成30年10月1日（月）～10月31日（水）

【お問い合わせ】新潟市農林水産部農林政策課 TEL025-226-1764



●新潟市秋葉区農業委員会の農地利用最適化推進委員

担当区域において、農地利用の最適化の推進に係る業務を行う農地利用最適化推進委員を募集します。

募集人員 16人 ※担当区域ごとに募集します。区域の詳細は募集要項をご覧ください。

対象 農業に関する識見を有し、農地等の利用の最適化の推進に関する事項その他の農業委員会の所掌に関する事項に関し、その職務を適切に行うことができる方

任期 委嘱の日（平成31年4月初旬）～平成34年3月31日

報酬 40,000円以内（月額）

応募方法 団体や個人からの推薦、自ら応募 ※所定の様式を提出してください。
くわしくは募集要項をご覧ください。

募集期間 平成30年10月1日（月）～10月31日（水）

【お問い合わせ】新潟市秋葉区農業委員会事務局 TEL0250-25-5571



※両委員の募集要項は、農業委員会事務局、秋葉区産業振興課で配布します。
また、新潟市ホームページからもダウンロードできます。

委員視察研修に参加して

秋葉区農業委員

大竹 玲子



七月十日・十一日、一泊二日の日程で農業委員、農地利用最適化推進委員、事務局、総員二十一名で福島県白河市へ研修に行つて来ました。

一日目は、農作業受託、農業経営、農産物の生産加工販売等の事業を行うため、JAしらかわの子会社として平成二十二年十二月に設立された(株)JAしらかわアグリを訪問しました。

平成二十三年の東日本大震災により主力パイプラインが破損し、水田への用水供給が不可能となり、水稻の作付ができなくなったことから、大豆百十三畝を始め、ソバ、ハトムギ、燕麦等、合計約五百畝の転作団地を形成したとのことでした。

作付不能となった田を転作団地に形成するまで、一カ月という短期間で大豆生産計画や収益試算表などを



作成し、農家への説明会を開催したり、戸別所得補償制度への加入を呼びかけるなど、並々ならぬ苦労があったと思われる。

見学させていただいた大豆畑は道路の両脇に十アールほどの大豆畑があるのみで、数十アールのまとまった団地を想像していただけに、これまでの苦労と努力を思うと、さらかわアグリの方々の発展を願わずにはいられませんでした。

二日目は、JA東西しらかわの「みりよく満点やさいの家(植物工場)」を見学しました。

外気を一切シャットアウトし、蛍光灯・LEDやエアコン等を用いて「完全人工光型水耕栽培」を行っている施設です。

この取組みのきっかけとなったのは、何より福島第一原子力発電所事故に伴う地域農産物に係る放射性物質の風評被害の払拭にありました。

また、既に取り組んでいた農産物の持つ機能性や健康に役立つものづくりを目的としたオリジナルブランド「みりよく満点」農産物と植物工場栽培する機能性成分をコントロールした野菜に共通する部分があったからとのことでした。

平成二十六年三月から本格稼働し、ミニ白菜・レタス類を中心に一日当たり三千株生産でき、種まきから三十五日程度で収穫となるため、計画の生産が可能です。

また、密閉された室内での栽培であり、病気や虫などの心配がなく、無農薬栽培のため洗わずに食べられるとのことでした。

私としては、サンドイッチなどに

使えば大変便利な商品になると思えました。

おみやげのフリルレタスを帰りの車中でいただきましたが、苦みやえぐみは殆どなく、優しい味で、少数家族や時間のない共働き家庭などにとっては便利だなと感じました。

生産コストと流通コストの削減に向けて採算性を考えたとき、これからのように取り組んでいくか、今後に期待したいと思います。



土屋庄一委員ご逝去

二年四か月にわたり農地利用最適化推進委員として本市の農業振興にご尽力されました土屋庄一さんが七月二十三日にご逝去されました。ここに深く哀悼の意を表するとともに、ご冥福をお祈りいたします。

潜入レポート

佐藤農業委員が平成三十年七月二日に開催された、中東蒲原指導農業士会現地研修会に参加しましたので、その概要についてレポートします。



農政振興部会長
佐藤 英一

今回の取材先は、新潟農業普及指導センター内に事務局のある中東蒲原指導農業士会の現地研修会です。

研修会では、秋葉区市之瀬地区にある長井農園と岡田地区の榊白銀カルチャーを訪問し、それぞれの先進的な取り組みや技術などについて研修が行われました。

今回は、紙面のスペースの関係で榊白銀カルチャーの現地研修会についてのみレポートします。

平成二十五年に経営の強化と若者・後継者の就職先としてふさわしい雇



用の場とするため有限会社から株式会社に変更したとのことでした。

株式会社化により、消費者ニーズを踏まえ高い収益力を追求するとともに、実証試験研究としてV溝乾田直播種、大豆狭畔栽培、遠隔管理自動給水栓などにも取り組んでいると話しておられました。

また、積極的な麦・大豆生産を進めており、今では、大豆の面積が水稻の面積を超えている状況です。今ブームになっているもち麦も生産し収益をあげているとのことでした。

今後の経営方針として、水稻、大豆、大麦の土地利用作物を中心に規模拡大していくこと。また、研究機

関の新技术や機械の開発に協力し、いち早くそれを導入することで、一層のコスト削減・作業の効率化を図ることなどを挙げておられました。

同社には、会社経営が安定することにより、若者に雇用の場を提供することや、地域にある農地の受け皿機能の役割を發揮し、地域農業を一層活性化させるための中心的役割が期待されています。以上、報告を終わります。

(株)白銀カルチャーの 主な栽培品目・面積等

品目	面積(ヘクタール)	品種等
大豆	41.4	エンレイ 里のほほえみ 岩手みどり
水稻	31.9	こしいぶき つきあかり こしひかり

全国農業新聞

NATIONAL AGRICULTURAL NEWS

- 発行日：毎週金曜日（月4回）
- 購読料：1ヵ月700円（税込み）
- 申込み：秋葉区農業委員会事務局まで

大麦	里芋	枝豆	ねぎ	施設トマト	その他
8.0	0.5	3.0	0.3	0.03	0.67
ミノリ麦・ゆきみ六条等	大和早生	湯あがり娘等	ホワイトスター等	アンジェレ 麗月 かぼちゃ みょうが等	